

若い世代への召し

七十人

ブレント・H・ニールソン長老

「すべての国民を弟子として、父と子と聖霊の名によって、彼らにバプテスマを施すこと」以上に偉大な召しはありません。

地上での務めを終えた後、救い主は復活体で使徒たちの前に御姿を現されました。そのとき使徒たちは、今日の若い世代の皆さんと同じ召しを受けました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し〔なさい。〕」（マタイ28：19）

1974年4月6日、スペンサー・W・キンボール大管長が新たな預言者として支持されました。同じ日、わたしは専任宣教師としてフィンランドに召されました。キンボール大管長がその週、教会の中央幹部と地区代表に、歴史的な説教をしたことを、当時のわたしは知りませんでした。後に、キンボール大管長がその説教の中で、「すべての国民を弟子と」するという救い主の命令を教会全体でどのように達成するのかを預言者として示したことを知りました。説教の中で、キンボール大管長は、教会員に歩幅を広げ、視野を広げるよう勧告しました。一人一人のふさわしい若い男性に、栄えある専任宣教師となる備えをするように言いました。各国の会員に、自国で奉仕する十分な数の宣教師を備えるよう励ましました。さらに、有能な人々に、各国の扉を開くために世界に出て行き十二使徒を助けるよう呼びかけました。（「この世が改宗するとき」『聖徒の道』1984年9月号、5）

キンボール大管長は1974年の説教の中で、教会は330万人の会員と、1万8,600人の専任宣教師を擁しており、633のステークがあると述べ、さらに努力し、見方を変え、より良い展望を持つよう勧めました("When the World Will Be Converted," *Ensign*, Oct. 1974, 7—8参照)

それにこたえて、わたしたち教会員は、家族で、聖餐会で、ステーク大会でいつも、国々の指導者の心が和らいで、教会の宣教師たちのために門戸が開かれるようにと祈るようになりました。会員たちは福音を伝える自分たちの責任をさらに自覚するようになりました。教会の若い男性はキンボール大管長の勧告に従い、宣教師の大いなる軍勢が集まりました。わたしたちは、キンボール大管長のビジョンが現実になるのを目の当たりにしました。

フィンランドで伝道中、伝道部会長夫人のリア・マホネー姉妹がフィンランド出身であると知りました。フィンランド東部の町ビープリで少女時代を過ごした彼女は、第二次世界大戦中、荒廃がフィンランドや他の国々を飲み込む中、家族とともに故郷を離れました。ビープリはソ連に併合され、ブィボルグと名前を変えました。宣教師のゾーン大会で、マホネー姉妹はビープリに残された人のことや、彼らに福音を届けたいと心から望んでいることについて、いつも話していました。キンボール大管長の勧告に従い、わたしたちはその国の指導者の心が和らぎ、末日聖徒の宣教師がソ連に福音を届けられるよう、一致して祈りました。

わたしたちは何度もフィンランドとソ連の国境に行き、見張り塔と柵を見て、だれがその勇敢な若い男女になるだろう、そして、彼らはいつ国境を越えてロシアに福音を届けるだろうかとよく考えていました正直なところ、当時のわたしには、それは実現不可能なことのよう思えました。

3年前、息子のエリックがロシア・サンクトペテルブルク伝道部への召しを受けました。伝道地からの最初の手紙にはこうありました。「お母さん、お父さん、ロシアで最初の町が割り当てられました。お父さんは聞いたことがあるかもしれませんが、ブイボルグという町です。以前はフィンランドの一部で、ビープリと呼ばれていました。」

エリックが召された町が、わたしたちが32年前に祈ったまさにその町であることを知り、涙がこみ上げてきました。エリックはその町の教会堂と忠実な支部の聖徒たちを見つけました。わたしが若いころ、入るのは不可能だと思っていた場所で、息子は生活し、働いたのです。

何年も前に、国境が開かれて宣教師が入れるようにというわたしたちの祈りが、息子のために祈る祈りになっていたとは、思いも寄りませんでした。若い世代の皆さん、大切なのは、息子のエリックは、自分と同僚が、何年も前の何千という忠実な聖徒たちのささげた祈りの答えであると気づいていなかったことです。若い世代の皆さんは、預言の成就です。すなわち、わたしたちの時代には「神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、業は成就したと仰せになるのである。」（ジョセフ・スミス *History of the Church* 第4巻, 536より）

35年前のキンボール大管長の預言から現在までに、教会員総数は1,350万を擁するまでになり、宣教師の数は5万2,000人に、シオンのステークは2,800以上になりました。この不思議な驚くべき業を世にもたらす助けをした果樹園の働き手とは、だれのことですか。もちろん、今日わたしたちの前に座っている預言者や使徒たちはそうです。また、忠実に働いているすばらしいステーク会長やビショップたちもそうです。また、今日の若い世代である皆さんのそばにいる両親、すなわち母親、父親、また、おば、おじ、兄弟、姉妹たちもそうなのです。しかし、最も重大なのは、わたしたちがすべての国に福音を届けようと努力するときでも、それはわたしたちがまだほんの一部を始めたにすぎないという事実です。

そして、たいまつは新しい世代に受け継がれました。救い主は、御自身の今日の預言者トーマス・S・モンソンを通じて、もう一度同じ召しをお与えになりました。

「基本方針は、主なる救い主、全世界の宣教師の軍勢を指揮する長として立つ御方から出されました。復活した後、主は11人の弟子に御姿を現されました。主はそのとき、どのような勧告、思い、警告を伝えることもおできになったはずですが。しかし主は何と言われたのでしょうか。それはマタイによる福音書第28章18節から20節に記されています。

『それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。』」

モンソン大管長はこう続けました。

「何という約束でしょう。この神聖な召しにこたえるなら、『わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである』という権威ある約束を受けるのです。わたしはこれ以上の約束を知りません。」("The Five M's of Missionary Work," *New Era*, 2007年3月号, 42)

モルモン書の中で、ヤコブは、ゼノスの言葉を引用し、栽培されたオリーブの木と野生のオリーブの木のたとえを通じて今日のわたしたちの役割を説いています。「だから、行って僕たちを呼び集めなさい。わたしたちは果樹園で力を尽くして熱心に働き、もう一度自然の実を結ばせる準備をしよう。自然の実は良い実であり、ほかのどんな実よりも価値のあるものである。だから、行って、この最後の時に当たって、わたしたちの力を尽くして働こう。終わりは近づいている。これはわたしが果樹園で刈り込みをする最後の時である。」(モルモン書ヤコブ5:61-62)

救い主の召しは、若い皆さんの世代に向けられています。主はふさわしく、備えのできた、忠実な若い男性と若い女性を求めておられます。預言者の声を心に留め、さらに困難に遭いながらも、救い主御自身が言われたように「わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください」と言う若い男性と女性を求めていらっしゃるのです(アブラハム3:27)。主はかつてないほどに皆さんを必要とされています。畑はかつてないほど白くなっています。皆さんは「この最後の時に」出て行くよう召されています。(ヤコブ5:62)「すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施[す]」(マタイ28:19) こと以上に大いなる召しはありません。

わたしは、天が開かれていることを厳粛に宣言し、証します。神はこれまで同様、今日も語られます。神の御子イエス・キリストは生きていらっしゃる。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」と言ってペテロとアンデレを招いたのと同じように皆さんを招いておられます(マタイ4:19)。彼らのように皆さんも主にこたえ、すぐに網を捨てて主に従いますように。

若い世代の皆さんが、真理と義のために立ち上がり、出て行ってすべての国民を教えるという神聖な召しを理解できるよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。